



文部科学省

万博プロジェクト

# 共創の場が創る 未来のありたい社会（仮）

2023年度 報告書

2024年3月

本報告書は、文部科学省による令和5年度産学官連携支援事業による委託事業として、株式会社三菱総合研究所が実施した「「2025年日本国際博覧会」における産学官連携拠点コンソーシアムによるコンテンツ出展に係る企画・立案業務」の成果を取りまとめたものです。

# 目次

---

## 1.万博プロジェクト 企画骨子

- 1.1 実施会場・実施期間
- 1.2 コンセプト・ターゲット
- 1.3 2023年度の検討体制

## 2.展示企画の進め方

- 2.1 会場コンセプト
- 2.2 会場構成
- 2.3 展示企画の進め方
- 2.4 拠点企画の展示構成

## 3.今後の進め方

- 3.1 プレイメントについて
- 3.2 2024年度以降のスケジュール

# はじめに

---

知と人材の集積拠点である大学等のイノベーション創造への役割が増している中、産学官連携事業を通じた研究成果を国内外に発信することにより、大学等への更なる投資や産学官連携を加速化する必要があります。

そのため、「最先端技術など世界の英知が結集し新たなアイデアを創造発信」や「国内外から投資拡大」等を目的とする大阪・関西万博の場で産学官連携の成果を提示することは極めて重要と考え、わたしたちは共創の場形成支援事業等における各大学の取組みを素材として、万博（テーマ：いのち輝く未来社会のデザイン）を、国内外から参加する人々が未来を創る「科学技術」や未来を創っていくための「共創」と出会う場として活用していくこととしました。

本企画書はその検討をまとめた資料です。

なお、本企画については、後述する「万博プロジェクト コアメンバー」のアイデアを中心に、(株)三菱総合研究所ならびに連携チームであるgraf、SUNDREDがとりまとめを行ったものである。

# 1.万博プロジェクト 企画骨子

---

## 実施会場・実施期間

- 万博プロジェクトは、2025年大阪・関西万博アクションプランに基づき2023年度より企画を開始しました。2025年に向けて企画を進めていきます。
- なお、実施会場、実施期間については、下記に示す場所・日時に決定しました。（2024年3月末時点）

### ベースとなる計画

2025年大阪・関西万博アクションプランに掲載されている

**「共創の場」が創る”未来のありたい社会”**

### 実施会場

**EXPOメッセ**

### 実施期間

**2025年8月12日（火曜）～8月20日（水曜）**

※搬出入込みの日程

## (参考) 2025年大阪・関西万博アクションプラン

### 6. 最先端の科学技術

連絡先 文部科学省産業連携・地域振興課  
03-6734-4020

## 「共創の場」が創る“未来のありたい社会”

### ①実施概要

- ◆ SDGsを踏まえた未来のありたい社会像を実現するため、「共創の場形成支援プログラム」等の産学官連携事業により、大学等を中心に、産業界や地方自治体等とのパートナーシップによる研究開発や社会実装を推進。
- ◆ カーボンニュートラル、MaaS等のモビリティサービス、医療・ヘルスケア、食糧問題、気候変動等のさまざまな社会課題の解決を目的とした研究開発により、着実に社会実装の芽を創出。
- ◆ 大阪・関西万博においては、産学官連携事業の参画拠点による成果の発信、対話型コンテンツ等を通じて参加者が社会課題を自分事として捉える機会を提供。

(実施主体) コンソーシアム (文科省、参画拠点の大学・自治体・民間企業等)

(実施場所) 会場内 (メッセを想定)

(実施期間) 開催期間中 (開催期間前後に複数の関連イベントを拠点と連携して実施予定)

### ②今後の実施方針

- 2023年度：コンソーシアムによる企画・検討
- 2024年度：コンソーシアムによるコンテンツの制作、関連イベントの実施

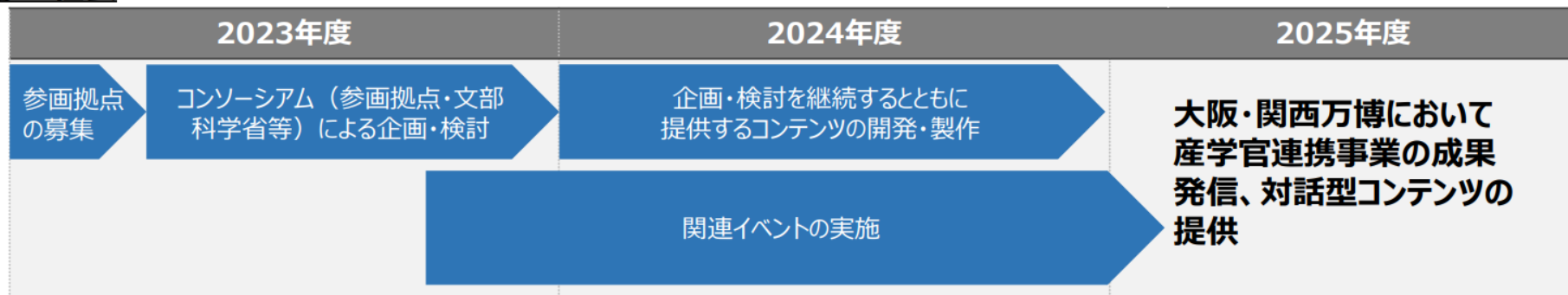
### ③予算

令和5年度補正予算額：121百万円の内数

令和6年度概算決定額：55百万円の内数



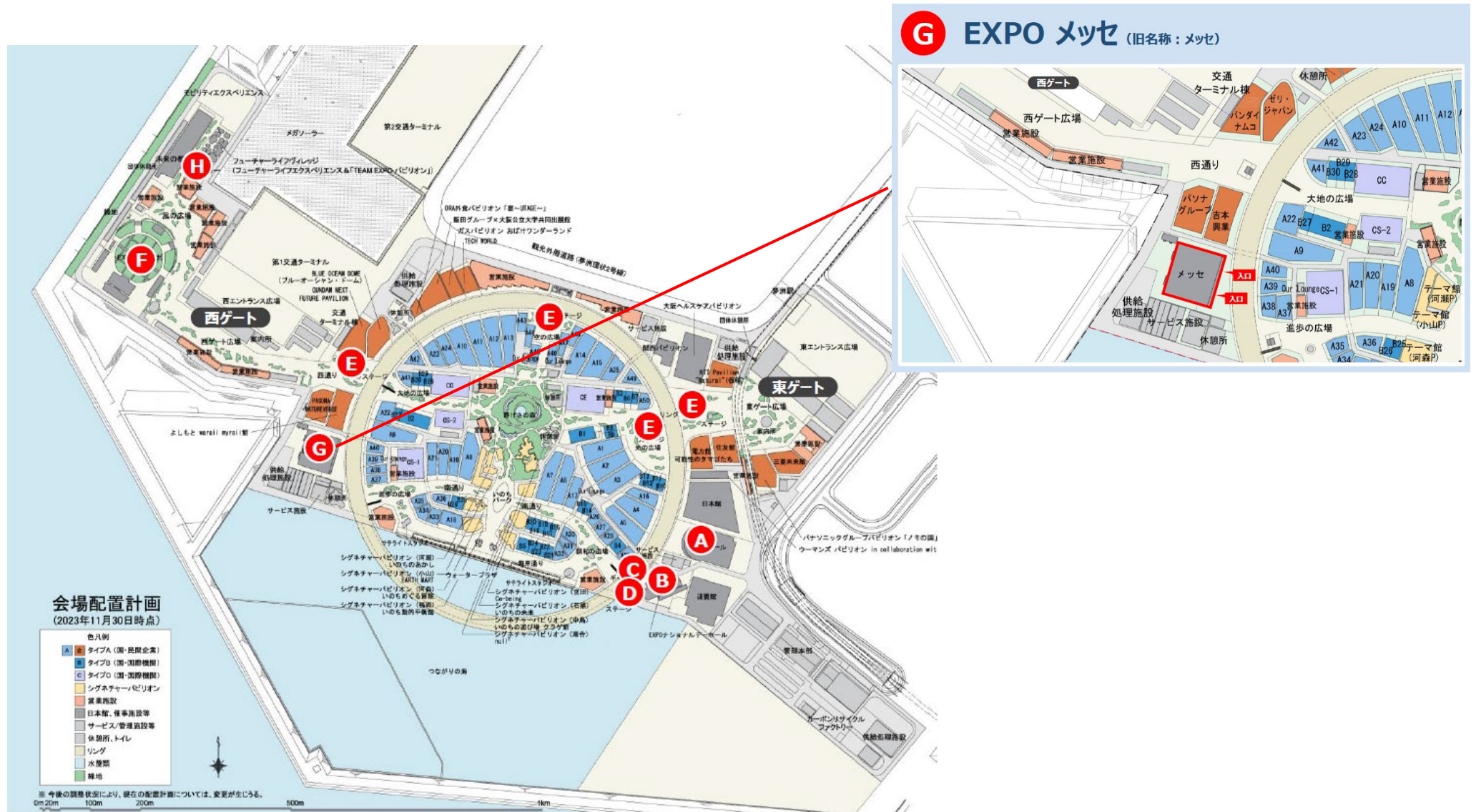
### ④工程表



81

1.1 実施会場・実施期間

(参考) 会場概要 「EXPOメッセ」



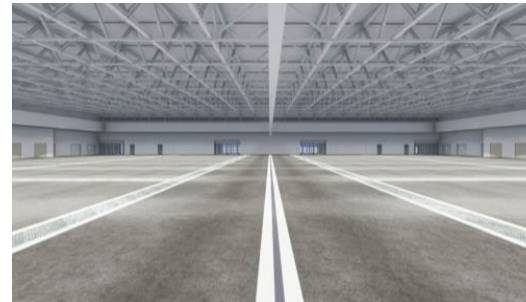
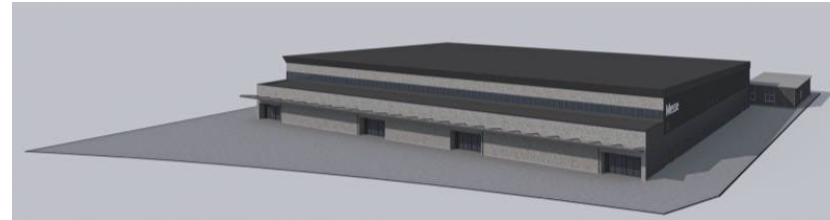
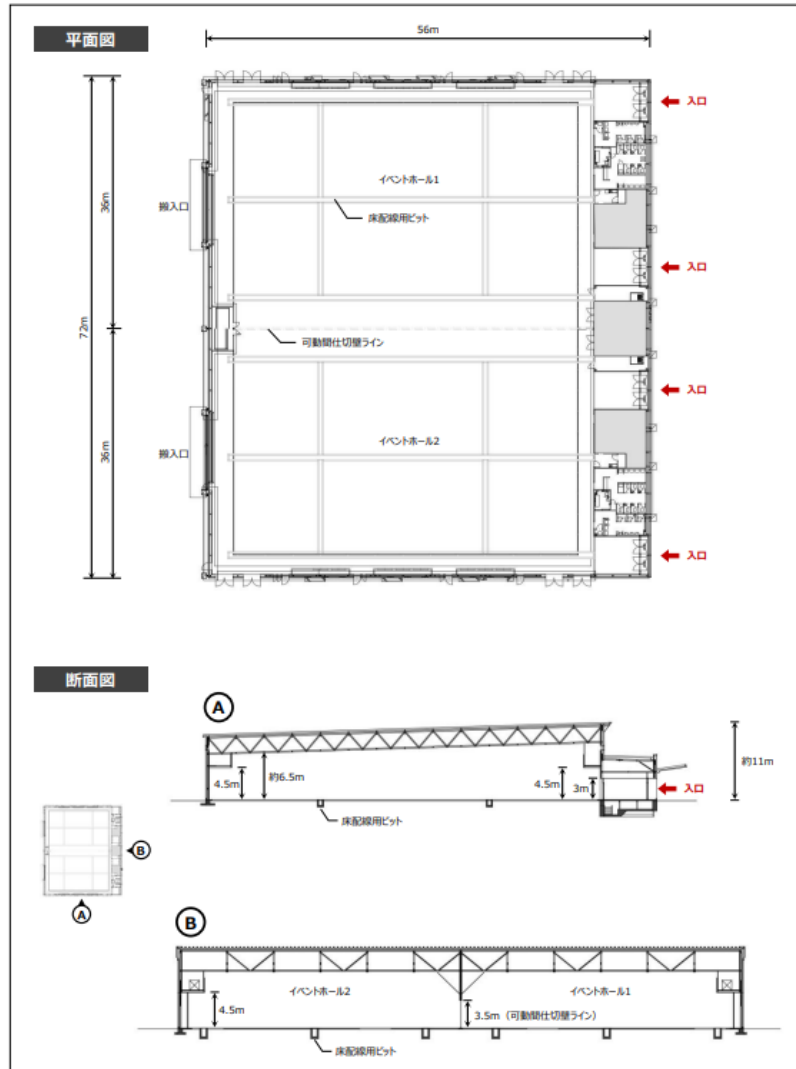
参考) 2025年日本国際博覧会 催事施設概要 ver.2 (2023年12月) より抜粋

## 1.1 実施会場・実施期間

## (参考) 会場概要 「EXPOメッセ」

## 2) 各施設概要

## G EXPO メッセ (旧名称: メッセ)



## 施設概要

建築概要	鉄骨造 屋内型展示場
展示面積	4,000㎡ (2分割使用/各2,000㎡)
展示場サイズ	間口 約72m/奥行 約56m/高さ 約6m (中央間仕切り部分は約3.5m)
最大収容人員	3,000人 (2分割使用時 各1,500人)
設備概要	●放送設備 ●給排水設備 ●床下ピット ●吊下げ用フック
付帯設備	主催者事務室

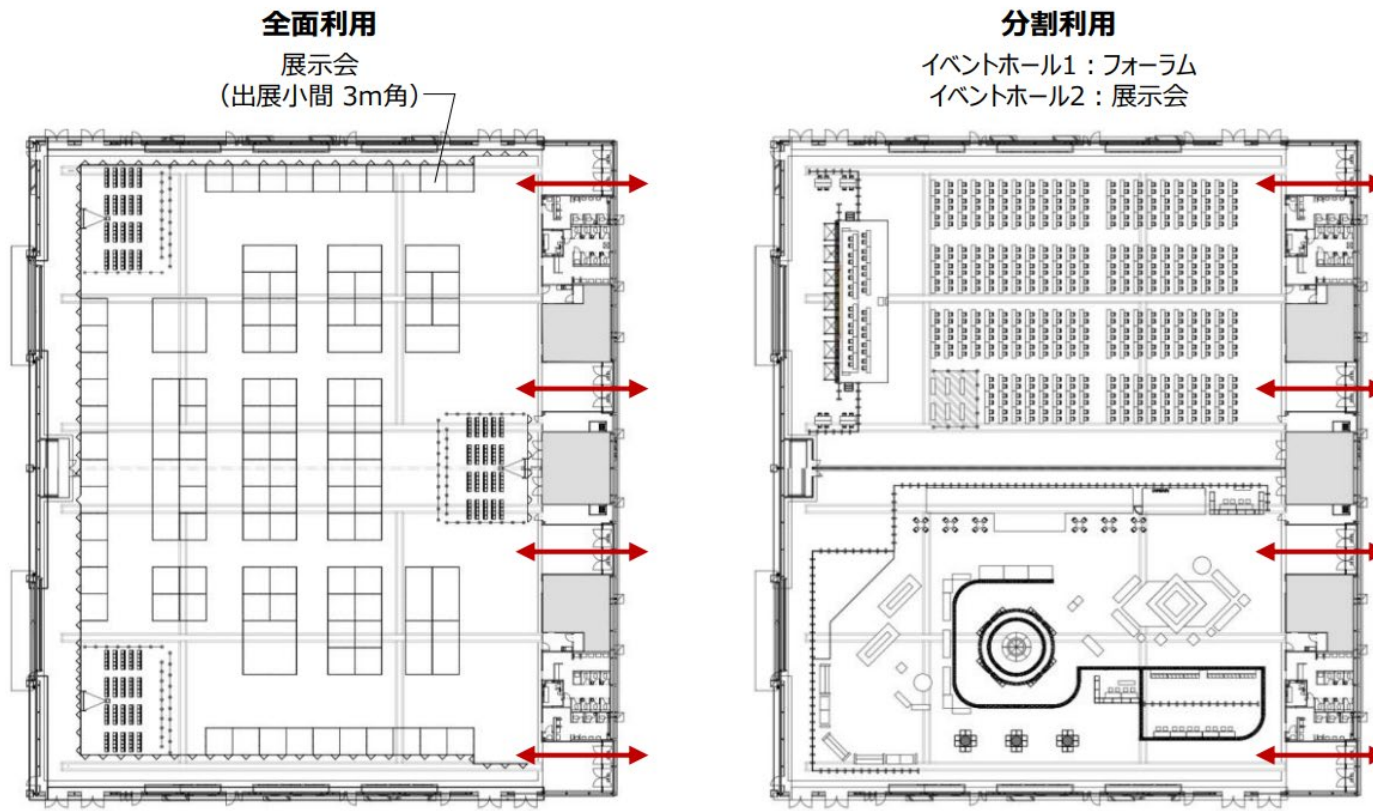
本企画では、EXPOメッセの半面 (約2,000m<sup>2</sup>)  
を利用予定

参考) 2025年日本国際博覧会 催事施設概要 ver.2 (2023年12月) より抜粋

## (参考) 会場概要 「EXPOメッセ」

### 展示レイアウト例

※下図に記載の展示什器等は利用者の持ち込みを想定しており、常設備品ではありません。



参考) 2025年日本国際博覧会 催事施設概要 ver.2 (2023年12月) より抜粋

## (参考) 会場概要 「EXPOメッセ」

---

### 想定される催事演目

- 様々な展示会やフォーラム等

### 施設利用単位

- 1日単位/9時～21時（搬入搬出、退去までの時間を含む）

### 施設内での飲食や商業活動

- 可能

## 本企画のコンセプト

---

<コンセプト>

# あなたは、未来をつくれる人。

- 本展覧会は、研究というものに触れた来場者自身の「気持ちの変化」や「行動変容」を引き起こすことを目的としているため、研究成果物や技術を見るだけではなく、主体的に体験を伴う経験の提供をしたいと考えています。
- このコンセプトワードは今回のターゲットである中高生・大学生をはじめ、国内外の企業・団体に向け発信したいコンセプトメッセージです。研究者視点で研究内容を成果を展示するのではなく、来場者自身に投げかけ、自分ごと化してもらえるように来場者を主役にしています。
- また、本プロジェクトを見ることを目的に来場した人たちではなく、万博に遊びに来た中でこのプロジェクトに関心を持たずにふらっと立ち寄った人にも、何か一つでも気付きを得て、面白い体験として持ち帰ってもらえるような企画を目指しています。

## 本企画のコンセプト

あなたは、  
未来を  
つくれる人。

地球は今ちょっと、大変なことになっている。  
大きな気候変動、広がる地域格差、  
薄まる人と人のつながり、  
エネルギーや資源、食糧の問題。

いくつもの問題を前に、希望をなくしたり、  
考えることを諦めたりする人もいる。

でも、研究者たちは未来を見つめ、  
まだ答えのない問題に立ち向かっていく。

失敗してもそこから何かを学び、挑戦を重ねていく。

仲間を広げ、共に創りあげた成果を、  
多くの人と分かち合っていく。

そしてほんとは、地球に生きる一人ひとりが、  
今起こっている問題について考え、  
未来を切り拓く力を持っている。

そう、きっとあなたも。

## 本企画のターゲット

<メインターゲット>

### 中学生・高校生

- 中学生・高校生を中心にした、次世代を生きる若者たちが主なターゲットです。
- 万博プロジェクトを通じて、彼らが能動的・主体的に未来の創り手として物事を考え、行動に踏み出す機会になることを目指します。
- 合わせて、「科学者ってカッコいい!」「大人になったら、科学者になって、未来社会の構想や社会課題の解決に携わりたい。」と思ってもらえる機会を創造します。



## 本企画のターゲット

<ターゲット>

### 国内外の企業・団体

- 万博に訪れる国内外の企業・団体については、広く本企画のターゲットと考えています。
- 万博プロジェクトを通じて、科学（Science）が未来社会の構想や社会課題の解決にどう貢献しているかを理解するとともに、「万博プロジェクトに携わる人・チームと共創したい！」と感じてもらおうことを目指します。
- 今後の大学・研究機関と企業・団体との関係構築を目指したコミュニケーションを実践する一例として、2025年以降の産学官拠点形成の在り方の検討に繋がる設計をします。



## 2023年度の検討体制

---

- 2023年度においては、本プロジェクトのコアになる思想やアイデア、企画を検討すべく、産学官連携拠点から有志で検討メンバーを募りました。
- 立候補いただいた下記メンバーに、本プロジェクトの「コアメンバー」として議論に参画いただき、事務局と共に企画検討に注力いただきました。

- 伊藤 達矢 氏（東京藝術大学）
- 木村 尚史 氏（北海道大学大学院）
- 河内 幾帆 氏（金沢大学）
- 齊藤 大地 氏（北海道大学）
- 高瀬 堅吉 氏（中央大学／横浜市立大学）
- 田中 一平 氏（東京藝術大学）
- 董 芸 氏（名古屋大学）
- 常盤 拓司 氏（慶應義塾大学大学院）
- 森下 裕介 氏（東京大学）

※コアメンバーの掲載順は氏名のアイウエオ順の並び

※事務局：MRI、graf、SUNDRED

## 2.展示企画の進め方

---

## 本章の内容について

---

本章では、本プロジェクトの展示企画について、現段階（2024年3月末）での状況を示します。本プロジェクトについては前述の通り、2023年度の検討を基に、2024年度に詳細検討を進めるものとなっています。

そのため、本章に示す企画内容は実行を必ず担保するものではありません。例えば企画書内に示す「拠点数」「ゾーニングテーマ」「進め方（デザイナーとの連携）」などについては、現時点での検討状況を示しており、今後変更の可能性があります。

# 会場コンセプト

---

<会場コンセプト>

## 大きな迷路空間

<説明>

- 見る、歩く、迷う、選ぶ、知る、集める、迷う、解決する、集まる・・・自分の気づきで道は選ばれます。
- 今回の会場の導線は決まっていません。出会うものは拠点で開発されたもの、あるいは科学者など様々。
- 100人100通りのゴールへの道のりがある。最後に、「自分の価値観はこれだったんだ」「サイエンスはこういうことだったんだ」と理解できるような会場構成を目指します。

## 会場コンセプトを活かした空間構成

### <ゾーニング>

- 前述のコンセプトを基に、会場ゾーニングについて検討を進めました。
- ゾーニングを考える上では、「研究の分野・テーマ」ごとではなく、「研究のプロセスを感じられる」分け方にすることを重視しました。  
※暫定的に、6エリア（展示5エリア+ステージ1エリア）を設定しています。
- 成果発表の場に限らず、未来を想像(創造)するきっかけを育む場として、各エリアでは展示物に対してゾーンのテーマを軸に、モノの見方や捉え方などを展示の仕掛けを通して気がつく仕掛けを検討しています。
- 各ゾーンをどこからでも振り返りながらめぐることができるレイアウトにすることで、研究過程の中で生じる「行ったり来たり繰り返し紡いでいく」ことへの追体験ができるような構成を目指しています。

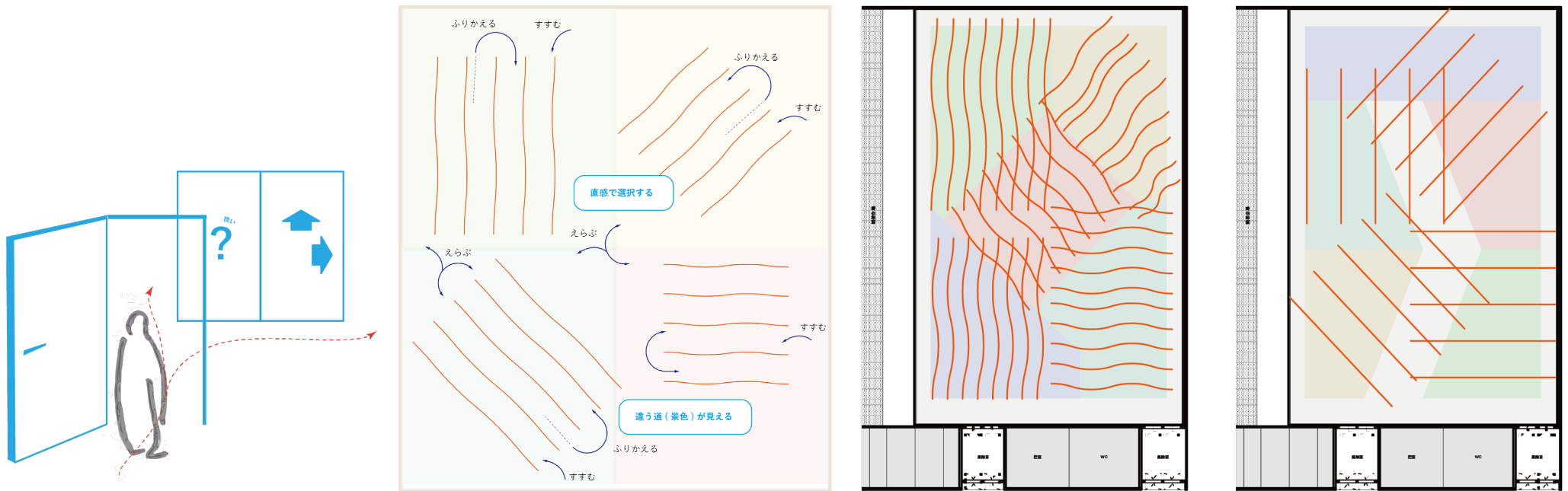


仮)ゾーニング

# 会場コンセプトを活かした空間構成

## <ルート>

- 前述のコンセプトを基に、ルートについて検討を進めました。
- 本会場では指定の順路を巡る固定導線ではなく、自由導線での設計を検討しています。
- それにより来場者が自分の選択によって「偶然に会う」瞬間を多く創り出し、100人が100通りの出会い方をする、「研究のプロセス」になぞらえた設計を施します。



# 会場構成

## <会場レイアウト> ※暫定

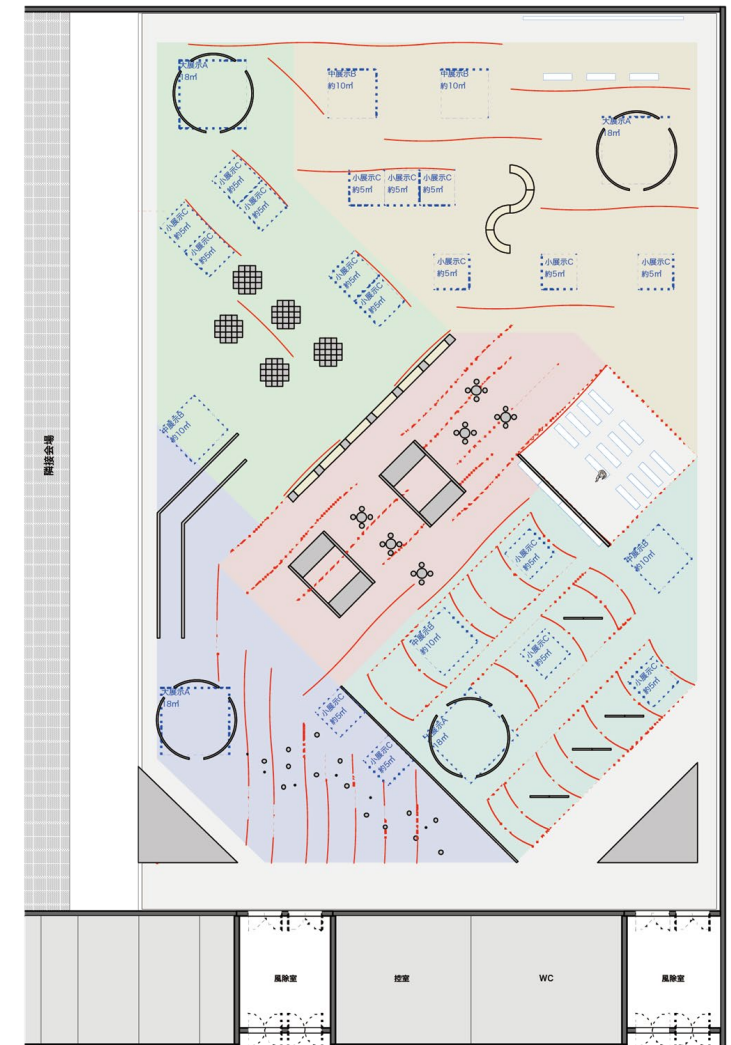
- EXPOメッセの半面(約2,000m<sup>2</sup>)の中に、6つのゾーン（5つの展示エリア+1つのステージ）を設定しています。
- 多様な規模の展示物が配置でき、どこにいてもその先に続く展示に気がつくことのできる緩やかな繋がり、正面性が無く順路を固定しない自由度の高い会場を目指しています。
- 拠点展示以外にも本企画で伝えたいメッセージを体験/体感できるコンテンツの設計を検討しています。

### ※暫定、会場構成レイアウト情報(右図)

#### ・全21拠点の展示を含めたレイアウト構成

- /大展示 おおよそ29m<sup>2</sup> : 4拠点
- /中展示 おおよそ13m<sup>2</sup> : 7拠点
- /小展示 おおよそ5m<sup>2</sup> : 15拠点

- ・6つのゾーンを想定、各エリアに上記拠点展示を適当に配置
- ・自由動線を誘発させるために、透ける布で視覚的に緩やかに仕切る
- ・自分なりにアウトプットが持ち帰ることができる仕掛け

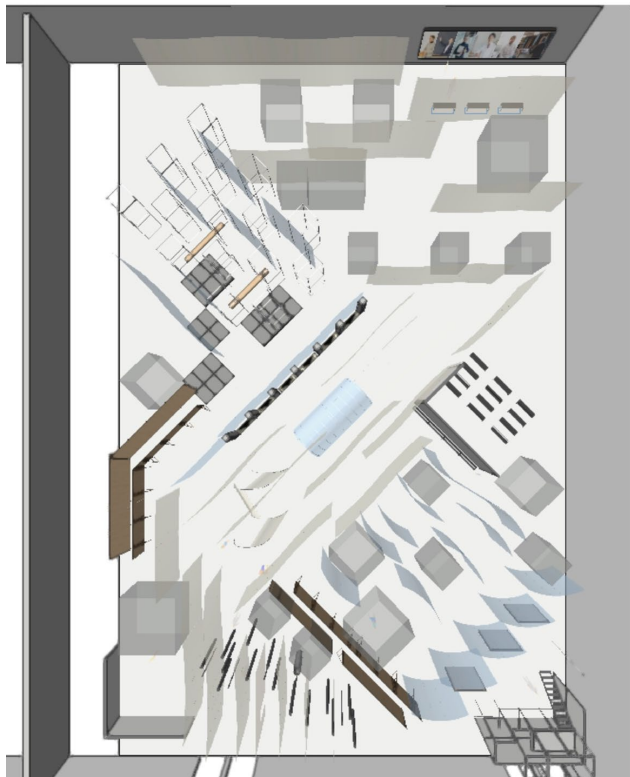


## 会場構成

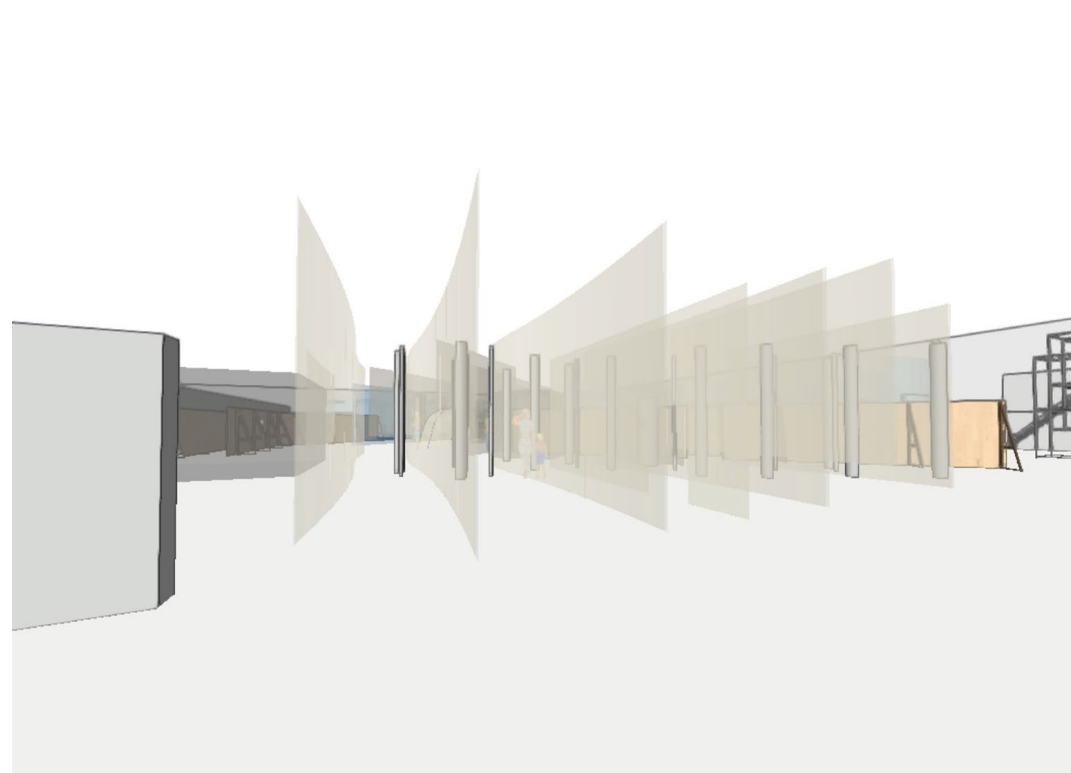
<会場を構成する空間>

### “偶然に出会う”瞬間を創り出す、自由な動線計画

- 展示ごとに空間を区切らず、順路の無い自由な展示空間を目します



(会場俯瞰パース)



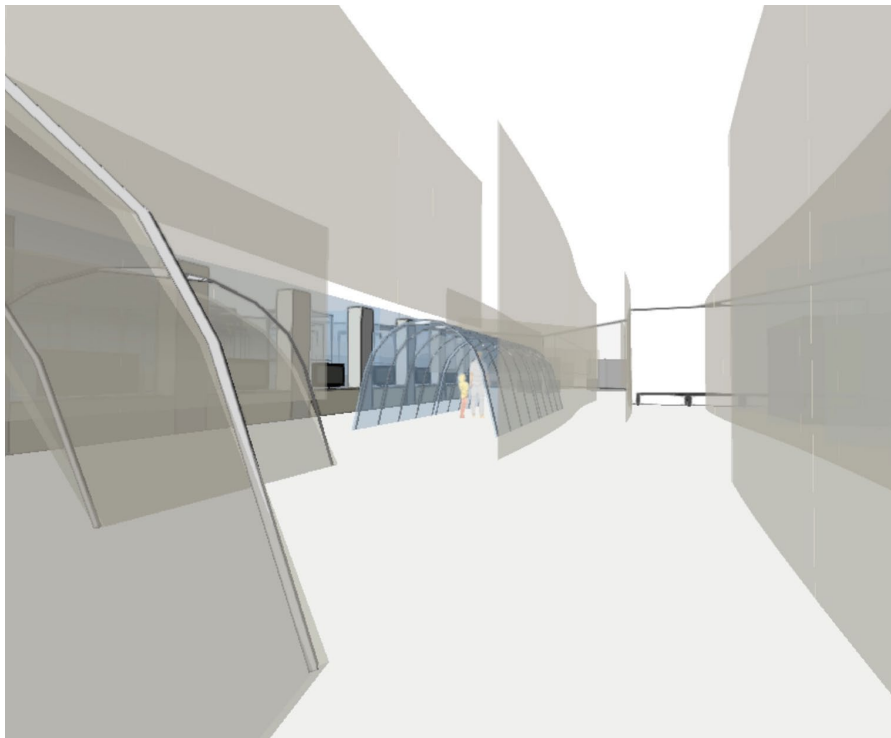
(左側エントランス視点)

## 会場構成

<会場を構成する空間>

### 見通しや抜け感を意識した間仕切り

- 大空間を広く巡ってもらうために、各展示の繋がりや見え隠れすることで生まれる好奇心を誘発するような工夫を施します



(会場内イメージパース)各エリア順路の横断



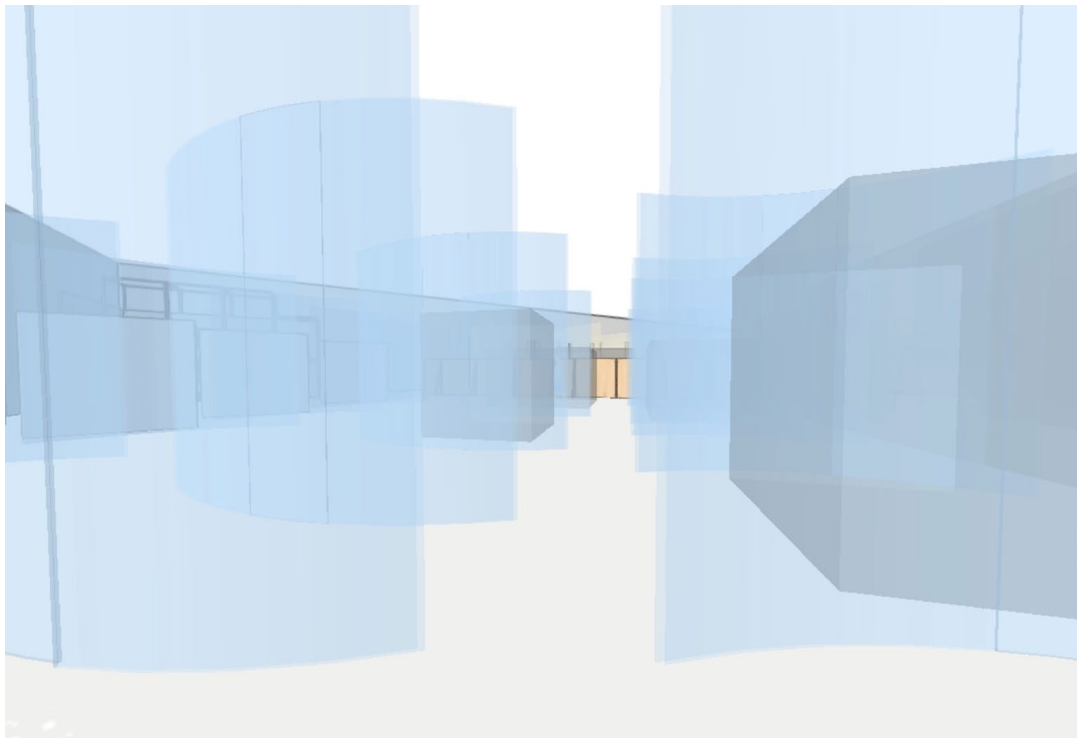
(会場内イメージパース)各エリア順路の横断

## 会場構成

<会場を構成する空間>

### 透過性の高い仕切りの活用

- 柔らかく空間を区切り、各展示エリアを簡単に横断できる設計にします



(会場内イメージパース)透ける布と奥行きのある通路

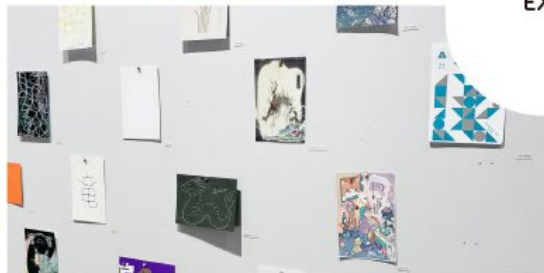


(会場内イメージパース)仕切りの高さ操作による見え方の違い

## 2.2 会場構成

## 会場構成 トーン&amp;マナー

- 本企画の主ターゲットである中学生・高校生が、展示全体を身近に感じられるよう、親しみやすいトーン&マナーを想定しています。



あなたは、  
未来を  
つくれる人。

EXPO2025 SDGs + beyond

親しみやすい

クラフト感

目線をさげる

わくわく感

丸文字

やさしいおしゃれさん

出典：

1. キュービーマヨネーズ工場展示
2. 無印良品「駄問の森『MUJI IS』を携えて展」
3. アドミュージアム東京「『思いつく』を考える展」

4. Spanish Pavilion at the Venice Biennale 2018

5. リビングデザインセンター OZONE  
「食べる、集う、もてなす展」

6. takeo「クリエイター100人からの年賀状展 vol.19」

## 展示企画の進め方

- 本展示企画においては、「①拠点活動に関する情報を基に企画するもの（以下、拠点企画）」と「②それ以外の部分（以下、全体企画）」の2種類の企画が存在します。
- ①における展示企画については今年度詳細の検討を行いましたので、その内容を後述します。
- ①における展示企画以外（ステージを利用した催事等）については、次年度以降に詳細の検討を行います。
- ②については、次年度以降に詳細の検討を行います。

### ①拠点企画

- 拠点展示企画
- ステージを利用した拠点催事企画

### ②全体企画

※グレー字の部分は実施有無含め次年度以降検討

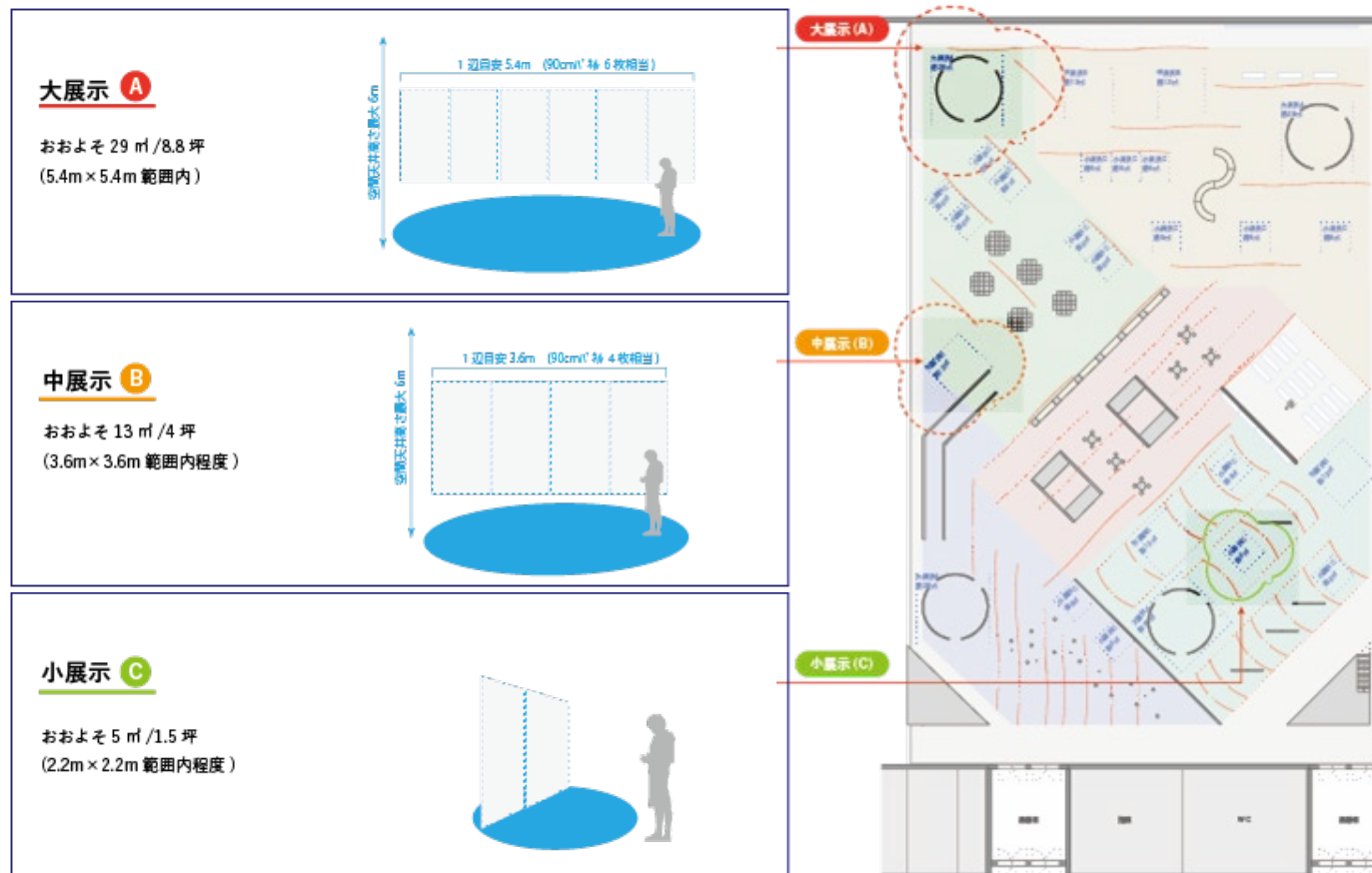
- プロローグ企画  
(全体の企画の説明映像等)
- シンボル企画  
(全体の象徴となる企画等)
- エピローグ企画  
(持ち帰りができる企画等)
- 全体催事企画  
(様々なコラボ企画等)

それぞれの企画を、内容を踏まえ会場の各ゾーン・共用部に配置していく

## 2.4 拠点企画について

## 拠点企画について

- 拠点展示企画については、大・中・小の3スケールの展示を想定しています。
- それぞれのスケールの展示数については、会場の大きさから、それぞれ4、7、15と置いています。  
※これらは次年度以降変動するものであり、目安の数字です。



## 拠点企画について

- 各拠点においてはその拠点企画の検討を進めるにあたり、＜STEP1＞自らの拠点の活動に関して伝えるべき情報を検討する、＜STEP2＞会場での伝え方について検討する、という2ステップを進めていきます。
- これらは具体的には、次年度以降、企画を決定していくプロセスで実施していく予定です。

### ＜STEP1＞自らの拠点の活動に関して伝えるべき情報を検討する

- ヒアリング等を通じた、各拠点活動の情報収集（実績情報と、個々人の想い）
- 事務局（クリエイター含む）とのディスカッションを通じ、焦点を当てるポイントを選定。



### ＜STEP2＞会場での伝え方について検討する

- 各テーマについて、出展規模に応じた見せ方・伝え方の情報交換
- 事務局（展示会社、クリエイター含む）とのディスカッションを通じ、展示企画方法やゾーンについて決定

## 拠点企画について（ステップ1）

- 下記のようなヒアリング内容を持って、各拠点の取組みについて関係者の理解を深めます。
- この際、アウトプットやアウトカムだけではなく、そもそもの着眼点や、今後の発展への思いなど、広く情報を得ることで気づきの幅を広げます。

### 出展希望者 ヒアリング内容

質問 1	現状	なぜその研究を行なっているのか？（発見した問題や設定した課題、研究そのものの目的など）
質問 2	インプット	何を投入しているのか？（どのような体制でどんな技術を用いているのかなど）
質問 3	アクティビティ	何を行なっているのか？（研究の計画や実施、そのプロセスなど）
質問 4	アウトプット	何を生み出しているのか？（研究の直接的な成果物など）
質問 5	アウトカム	初期～中期の成果は何か？（地球や社会に提供できる価値など）
質問 6	インパクト	最終的な社会変化 / 影響は何か？（社会実装されるとどのような変化につながるかなど）
質問 7	会場での期待	来場者に何を感じてほしいか？（こんな気持ちになってほしい、どう行動が変化してほしいかなど）
質問 8	質問5と質問7の関係	質問7の『来場者の気持ちや行動変化』を引き起こすために、質問5で回答した成果はどのようなかわりを持てるか？

## 拠点企画について（ステップ2）

- 各展示スケールでの特徴や、各ゾーンでの特徴的な展示方法の事例をもって、具体的な展示手法を検討していきます。
- 各展示について、今までと異なる視点での価値創出を進めるとともに、しっかりと個々の強みを生かした上で会場にしっかりと「伝わる表現」にするため、大展示や中展示に関してはデザイナーやクリエイターと共に内容を構築することをアイデアとして提案します。

※予算やリソースの制約上、これらを強いるものではありません

### 1.大展示（4程度） デザイナーと協働

オリジナルの展示方法で行う。

手法  
(一例)

- ・インタラクティブコンテンツ（センシング等）
- ・XRコンテンツ（バーチャルとの融合等）
- ・映像コンテンツ（モーショングラフィック等）
- ・オリジナル展示造形物
- ・パネル

### 2.中展示（7程度） デザイナーと協働

オリジナルの展示方法+規定フォーマットで行う。

手法  
(一例)

- ・映像コンテンツ（モーショングラフィック等）
- ・オリジナル展示造形物
- ・パネル

### 3.小展示（15程度）

規定フォーマットの展示方法で行う。

手法  
(一例)

- ・フォーマット展示造形物
- ・パネル

大/中展示×デザイナーの協働で  
大学の **研究をデザイン**の力で可視化 させる

オリジナル展示

〇〇大学 × クリエイティブファーム

オリジナル+フォーマット展示

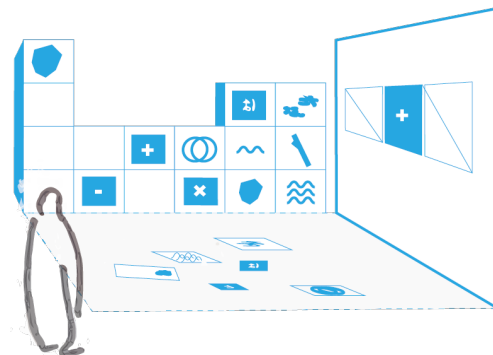
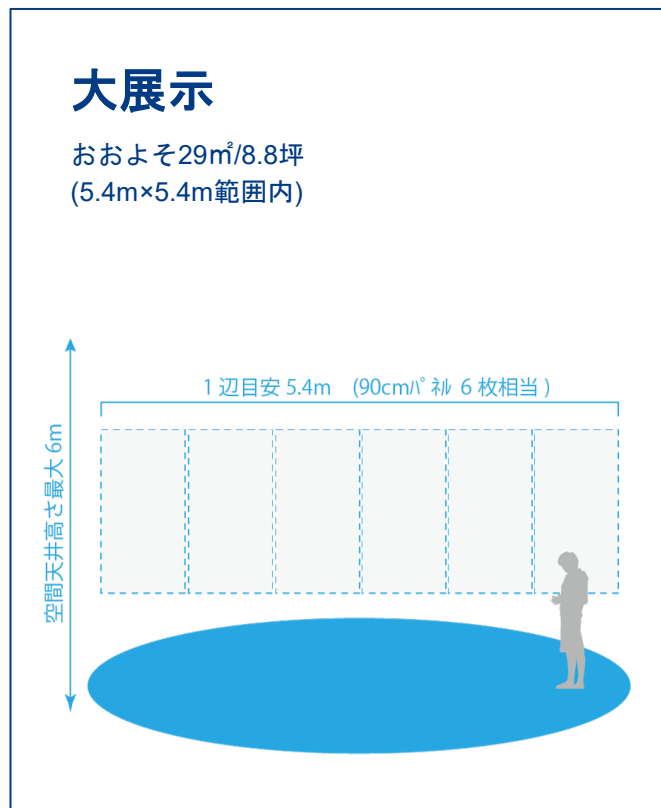
〇〇大学 × クリエイティブファーム

フォーマット展示

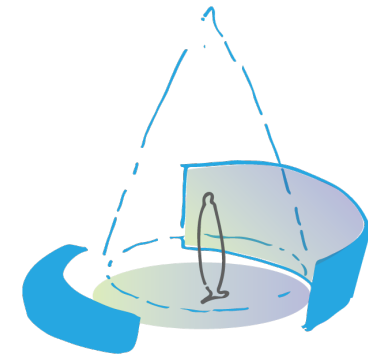
〇〇大学 規定フォーマット

## 展示構成例（大展示）

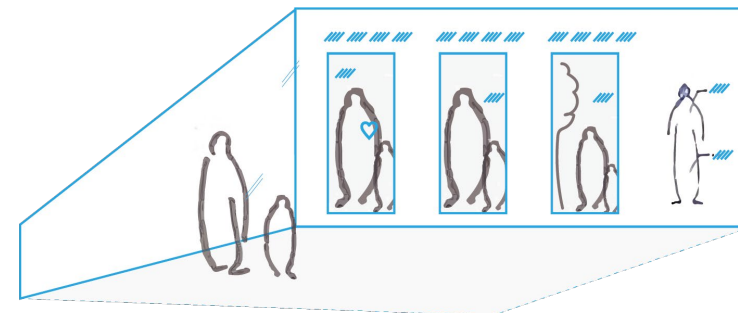
- センシング技術やXRコンテンツなどを用い、体験型・没入型のコンテンツなどの活用を想定しており、インタラクティブ性の高い展示を行います。また、補足的に、パネルや映像コンテンツ（モーショングラフィック）などを用い、分かりやすく情報を伝えます。
- このほか、実際に展示できる「もの」がある拠点については、それらも積極的に活用します。



展示イメージ例：パズル形式の立体的体験コンテンツ



展示イメージ例：  
センシング技術を用いた光や音が連動するインタラクティブコンテンツ

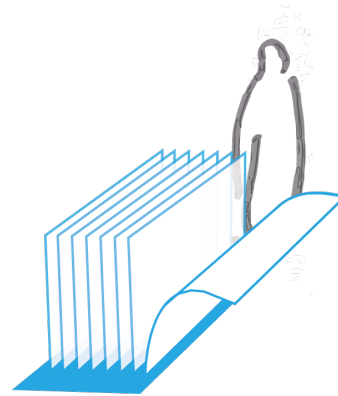
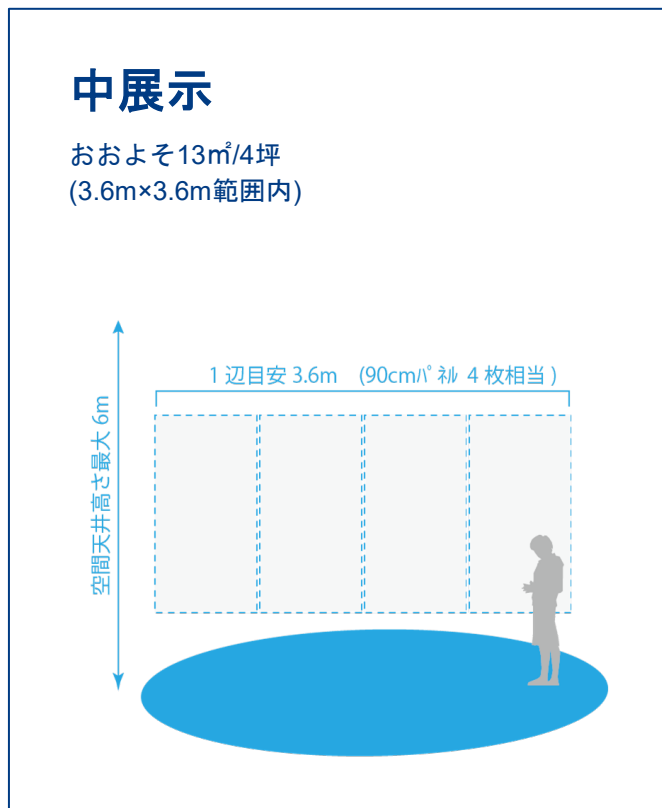


展示イメージ例：センシング技術を用いた映像コンテンツ

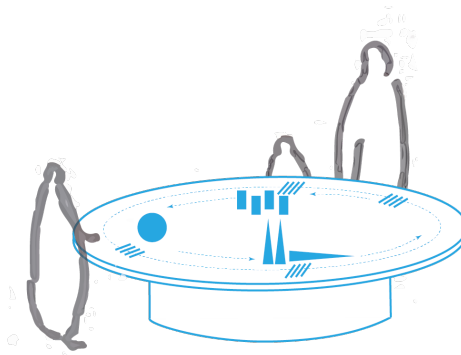
## 2.4 展示構成

## 展示構成例（中展示）

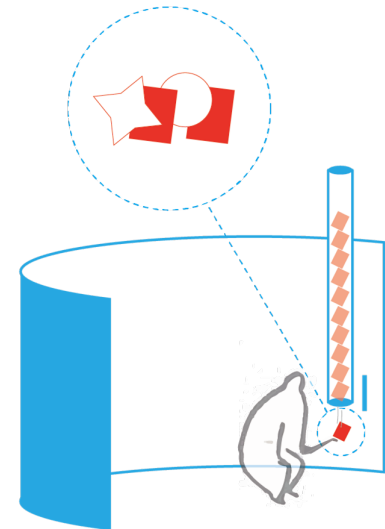
- パネルや映像コンテンツ（モーショングラフィック）などを用い、分かりやすく情報を伝えます。
- 嗅覚触覚などに五感にアプローチする体験型/没入型コンテンツを用いて表現します。
- 他にも、来場者それぞれが自分なりのアウトプットが持ち帰れる仕掛けなどで、自分ごと化することができるきっかけとなるコンテンツ展開も検討しています。



展示イメージ例：規格外の紙をめくり、自ら情報を集める



展示イメージ例：仮説を立てるイメージボード



展示イメージ例：体験しアイテムを集めて進める参加型コンテンツ

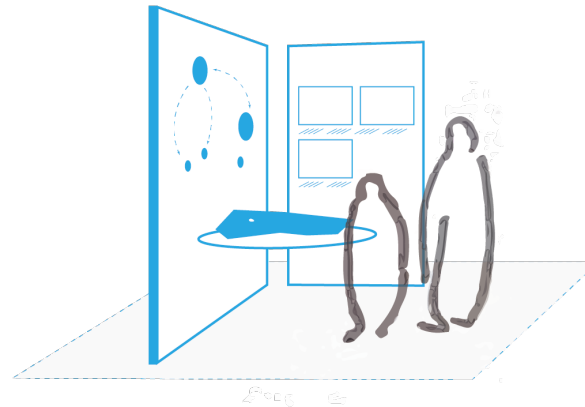
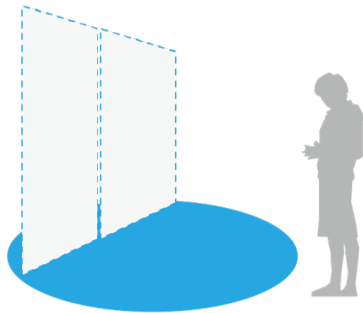
## 2.4 展示構成

## 展示構成例（小展示）

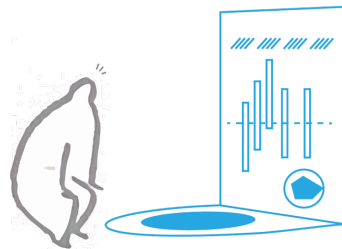
- 一定フォーマット化されたパネルやモノの他、映像コンテンツなどを用い、分かりやすく情報を伝えます。
- インフォグラフィックを用いて、説明をよりわかりやすく表現していきます。
- 来場者とのコミュニケーションのきっかけとなるようなコンテンツ展開も検討しています。

## 小展示

おおよそ5㎡/1.5坪  
(2.2m×2.2m範囲内)



展示イメージ例：展示形式を指定して、研究成果や伝えたい想いを展開



展示イメージ例：インフォグラフィックでわかりやすく情報を整理



展示イメージ例：  
来場者とのコミュニケーションのきっかけを誘発するコンテンツ

## 2.4 展示構成

## ゾーンごとの展示手法アイデア（参考）

〈ゾーン例①〉

## 発見する

来場者が自分で行動しないと気がつかない、視点を拡張する展示コンテンツ

〈展示展開イメージ案〉

○覗いてみる



○近くで見てみる



○耳を澄ましてみる



仮)ゾーニング

## 2.4 展示構成

## ゾーンごとの展示手法アイデア（参考）

〈ゾーン例①〉

## 探す

来場者が自分で展示物を探し、探求する姿勢を追体験する展示コンテンツ

〈展示展開イメージ案〉

○触れてみる



○視点を変えてみる



○捲ってみる



## 2.4 展示構成

## ゾーンごとの展示手法アイデア（参考）

〈ゾーン例①〉

## 観察する

自分の働きが連動し、変化に気づくきっかけを経験する展示コンテンツ

/みつめる

〈展示展開イメージ案〉

○色々な角度で見てみる



<https://concentrico.es/en/poema-de-agua/>

○動きの変化を見てみる



「魔法の美術館：リミックス」長崎県美術館

○五感を使ってじっくり感じてみる



仮)ゾーニング

## 2.4 展示構成

## ゾーンごとの展示手法アイデア（参考）

〈ゾーン例①〉

## 集める

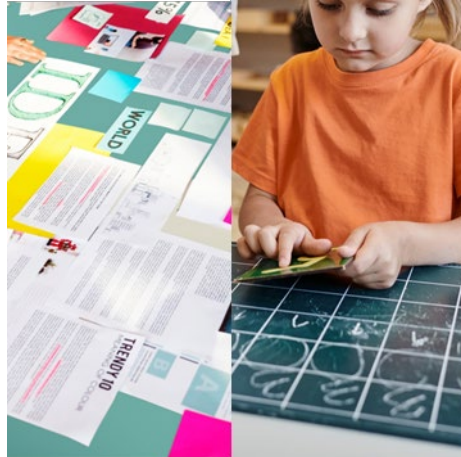
広げた情報を集め、必要なものを見極めていく展示コンテンツ

〈展示展開イメージ案〉

○研究のカケラを分類する



○きっかけキーワード(文字)を見つける



○データを可視化する



仮)ゾーニング

## 2.4 展示構成

## ゾーンごとの展示手法アイデア（参考）

〈ゾーン例①〉

## 調べる

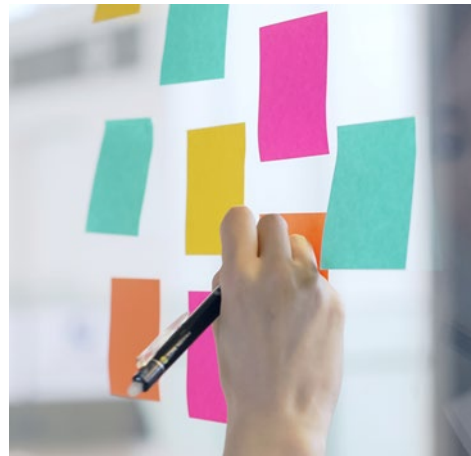
知りたいことや欲しい情報を自分で手にしていく展示コンテンツ

〈展示展開イメージ案〉

○質問してみる/聞いてみる



○自分なりに読み込む



○想像して描いてみる



仮)ゾーニング

## プレイメントについて

---

大阪・関西万博の機会を最大限活かすために、万博期間中だけではなく、展示・体験コンテンツ等の質を担保したプレイメントを早期に開催する予定です。

また本番を見据えたプレイメントにおいて、心を揺さぶる「実体験」を伴う「展示物」が会場で提供されるよう、大学等における体験型のインタラクティブな展示の制作を支援する補助金を用意していきます。（2024年3月公募）

### 3.1 プレイメントについて

## プレイメントについて

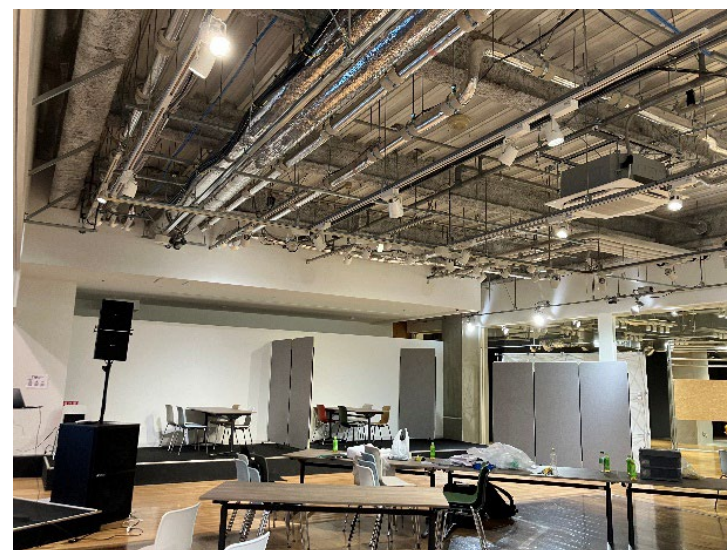
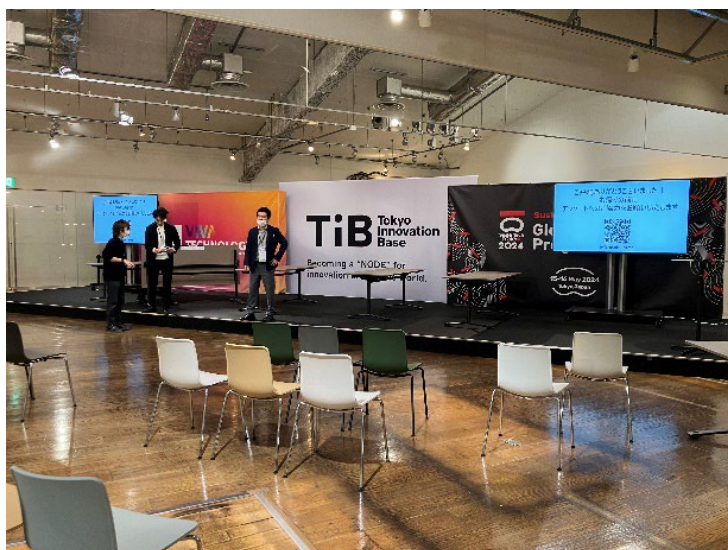
- プレイメントの実施会場、実施期間については、下記に示す場所・日時に決定しました。  
(2024年3月末時点)

#### 実施期間

**2025年2月予定** ※搬入搬出別で土日含む3~4日で検討中

#### 実施会場

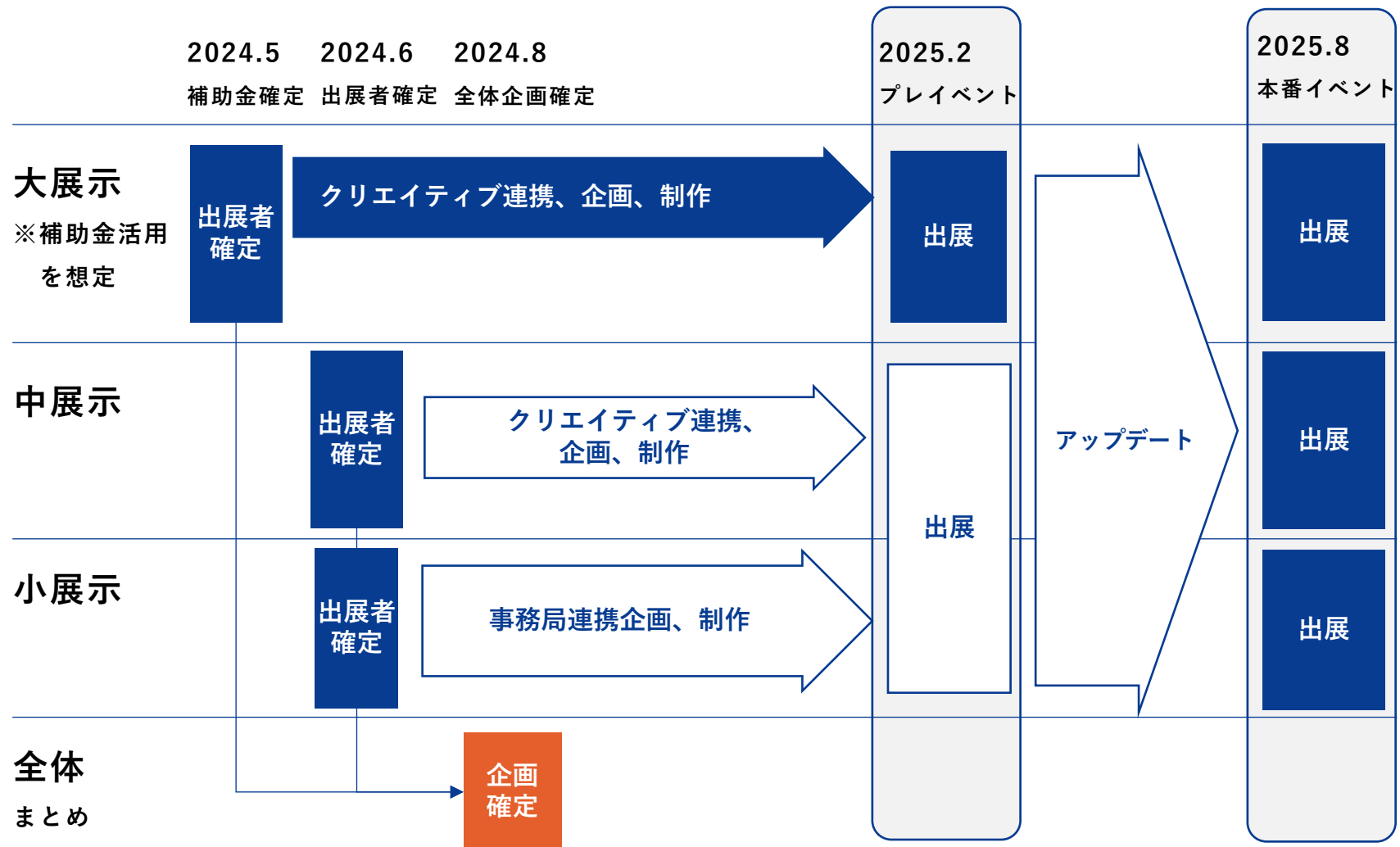
**Tokyo Innovation Base (東京 有楽町)**



## 3.2 今後のスケジュール

## 今後のスケジュール

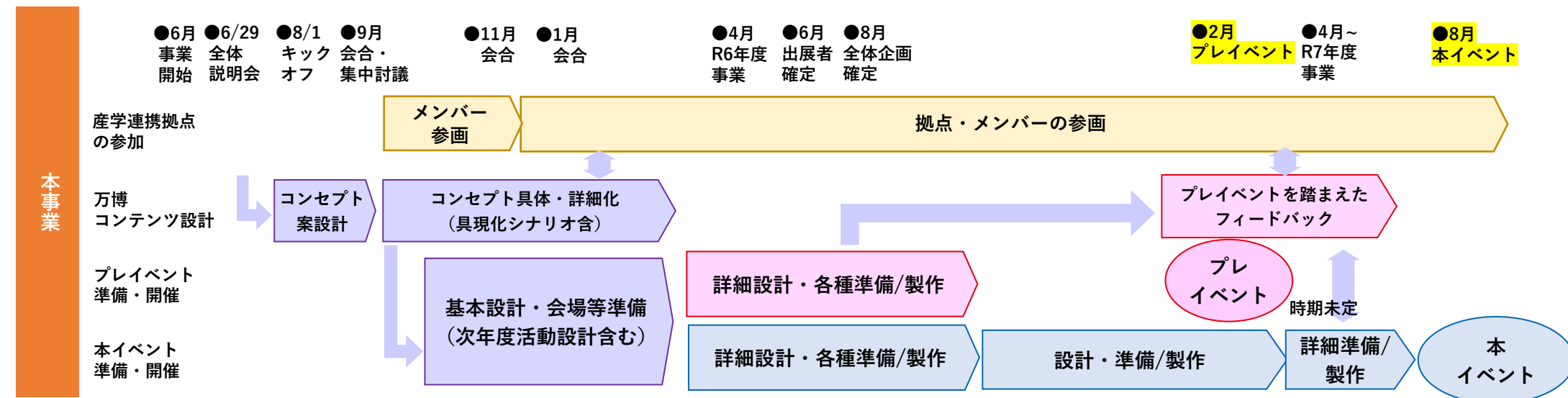
- プレイベント、本番に向けた今後のスケジュール（案）を下記に示します。



## 3.2 今後のスケジュール

## 今後のスケジュール

- プレイベント、本番に向けた今後のスケジュール（案）を下記に示します。



未来を問い続け、変革を先駆ける

**MRI** 三菱総合研究所